

ARFANEWS

発行所/スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 〒164-8604東京都中野区弥生町1-30-17 (有)ブックハウス・エイチディ内 電話03-3372-6251

★今回の封入物について

- ①年会費納入用振込用紙
- ②平成16年度事業参加アンケート (ハガキ)

■代表挨拶

2004年は、私たちが何とかよい時代を作らなければならないという責任を一層強く感じながら始まりました。私が新代表を務め、執行部も新しくなって1年目は手探りの状態でした。新体制移行のための準備はしてきたつもりではいましたが、後になって不徹底さばかりに気づかされるが多かったと反省しています。去る2月29日に初めての総会を迎え、皆様のご協力のもとで、懸案であった定款改正案が承認されました。この4月より心機一転、新しいスポリハのイメージが皆様に伝わるように、ひとつひとつの事業を展開していく所存です。

私たちは現在のスポーツ医療、そしてアスレティック・トレーナーやスポーツリハビリテーションを取り巻く様々な問題を認識する必要があります。中でも、選手をスポーツに復帰させるための課題を取り出し、解決法を掘り下げて探っていくことが求められています。スポーツ選手のリハビリテーション研究会の短期目標として、そのための具体的な方法を会員の皆さんとともに考え、提示することを掲げたいと思います。

平成16年度の事業は早い時期から企画案を練ることで、充実した内容で実施できると思います。ホームページやARFAニュースを活用し、情報交換がスムーズに行えるようにしていきましょう。まだまだ、足りないことばかりですが、スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会が皆さんの手で支えられているこ

とを実感できるように、執行部一同努力する所存ですので、どうぞご協力をお願いします。

平成16年4月吉日
 本会代表 浦辺幸夫

■今後の事業案内

平成16年度第1回講習会 (名古屋)

平成16年度第1回講習会の開催を下記要項で予定しております。今回は、スポーツ現場や医療機関で選手の訴えが多い「腰痛」を取り上げて、診断及び治療に関する最新の話題から実際のスポーツ現場における対策まで、幅広い内容をもって企画しております。多くの会員のご参加をお待ち申し上げます。

■開催要項

日程：平成16年6月13日(日)

会場：(財)スポーツ医・科学研究所
 (愛知県知多郡阿久比町)

参加費：会員5,000円、非会員7,000円

申し込み受付：当日会場にお越し下さい(予約不要)

テーマ：「スポーツ選手の腰痛治療を考える—腰痛治療の現状と今後への期待—」

プログラム：

9:30～受付開始

10:00～11:00 講義1「腰痛治療最前線」*腰部の診断・治療を専門とする整形外科医を予定(交渉中)

11:10～12:10 講義2「腰痛の評価法はどうなっているか」

13:10～14:10 講義3「なおせる腰痛となおせない腰痛」

*講義2、3はスポーツ選手の腰痛に詳しいトレーナー、理学療法士を予定(交渉中)

14:20～16:00 パネルディスカッション「私の行っている腰痛対策」

*スポーツ現場で活動されているトレーナー(3名)を予定(交渉中)

◎問い合わせ先

平成16年度第1回講習会 開催委員長 宮下浩二 ((財)スポーツ医・科学研究所)
 FAX 0569-48-0183

第17回ワークショップ (広島)

下記の要項で、第17回ワークショップを開催いたします。今回のワークショップは「評価内容が実際のリハビリテーションにうまくつながらない」という意見に答えられるような内容で企画しました。客観的に選手をみるために様々な評価がなされていますが、そのデータの取り扱いやまとめ方を考え、リハビリテーションを行うとどのような変化があるのかを確認していただくという内容です。実技を多く取り入れる予定にしています。また、簡単な統計処理を行いますので電卓か、ある人はパソコンを持参して下さい。

なお広島と各都市間を結ぶ航空路線と宿泊がセットになった格安のビジネスパックが各旅行社にございますのでお早めにお調べの上、お申し込み下さい。充実した2日間となるよう広島で皆様をお待ちしています。

■開催要項

日時：平成16年4月17日(土)、18日(日)

会場：広島大学霞キャンパス内 広仁会館ならびに保健学科棟 (〒734-8551広島県広島市南区霞1-2-3)

テーマ：「評価をスポーツリハビリテーションにどのように応用するか」

プログラム：

4月17日(土)

13:00 受付開始

13:30 開会式

13:40～15:10 講義1「評価をリハビリテーションにどのように応用するか—症例を通じたアウトカム評価

の紹介」浦辺幸夫・広島大学大学院保健学研究科

15:20～16:50 講義2「肩関節手術の最近の進歩」望月 由・広島大学大学院医歯薬学総合研究科

17:00～18:30 実技1「肩関節障害の評価とスポーツリハビリテーション」能勢康史・国士舘大学野球部コンディショニングコーチ

19:00～21:00 懇親会

4月18日(日)

9:00～11:00 実技2「スポーツ動作のみかたとストレッチングの活用—種目特性を考慮して—」平川信洋・鶴田整形外科医院

11:10～12:40 実技3「アライメント変化をどのように導くか—ビデオを用いた動作学習の試み—」加藤茂幸・吉備国際大学保健科学部理学療法学科

12:40～13:30 昼食

13:30～15:00 実技4「評価結果のまとめ方—データ処理に必要な基礎的統計手法の実習—」岩本久生・マッターホルン病院

15:00～15:10 閉会式

受講料：会員20,000円、一般35,000円

定員：50名(定員になり次第締切)

申し込み方法：氏名、所属、連絡先(TEL、e-mail)、連絡先住所を明記の上、e-mailかFAXにてご送付願います。なお、会員の場合は会員番号も併せてお知らせ下さい。申し込み受付を完了後、関係書類を送付いたします。

申し込み締切：4月10日(土)

◎問い合わせ・申し込み先

〒737-0046 広島県呉市中通1-5-25 マッターホルン病院リハビリテーション科 第17回ワークショップ開催委員長 岩本久生

TEL 0823-22-6868 FAX 0823-22-6870

e-mail ihisao@md.newweb.ne.jp

第18回ワークショップ(長崎)

平成16年9月4日(土)、5日(日)の2日間にわたり、第18回ワークショップを長崎で開催いたします。

テーマは「スポーツ外傷の予防・再発防止に向けた対策」として、スポーツ外傷の発生メカニズムから病態に関する知識と、その予防・再発防止に向けた対策に必要なとなる評価(検査)方法および具体的対応に関する技術習得を目的としています。スポーツ外傷を予防・再発防止において「本質的に何が問題で何が必要であるのか」という観点から今一度再考する機会にしたいと考えております。

詳細につきましては、ホームページにてご案内いたします。西の果てではありますが、異国情緒豊かな、かつ医学発祥の地、長崎での初めてのワークショップ開催でもあります。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

■開催要項

期日：平成16年9月4日(土)午後、5日(日)

会場：長崎大学医学部保健学科 第101講義室および運動療法実習室

参加費：会員20,000円、一般35,000円

テーマ：「スポーツ外傷の予防・再発防止に向けた対策」

◎問い合わせ・連絡先

長崎大学医学部保健学科理学療法専攻 横山茂樹

TEL&FAX 095-849-7967

e-mail shigeki@net2.nagasaki-u.ac.jp

第19回ワークショップ(案)

日時：2005年1月30日(土)、31日(日)

テーマ：「競技復帰直前のアスレティックリハビリテーション—走・跳・投動作に着目して—」

目的：競技復帰直前にフィールドで行うトレーニング要素(アジリティ、協調性、スローイング)を実技中心に行う

会場：東京都内、近郊を予定

受講人数：30～50名

プログラム：

講義「競技特性を踏まえたアスレティックリハビリテーションとトレーニング処方」山本利春・国際武道大学

実技1「ランニング(走)動作のランニング・ドリル—スプリント動作を模倣した筋力強化—」眞鍋芳明・茨城医療大学

実技2「ジャンプ(跳)動作—ジャンプ・ドリルあるいは段階的プライオメトリックトレーニング—」寺崎拓也・スポーツプロモーションJIN、全日本男子バレーボールトレーナー

実技3「スローイング(投)ドリル—スローイング・ドリル各種投動作(ジャンピングスローや各種動作)—メディシンボールエクササイズ」能勢康史・国士舘大学

実技4「アジリティ能力」

1)フットワークエクササイズ(認知とクイックネス)／飯島庸一・S-CHALLENGE

2)フットワークドリル(方向変換と種目特性)／野崎信行・浦和レッズ 第19回ワークショップ開催委員長 増田雄一(有リニアート)

第22回研修会開催のご案内

今年度、第22回研修会を下記の要項で開催いたします。「走動作獲得」に焦点を当て、様々な領域や分野における実践的な内容をもとに意見交換や議論をする場にしていきたいと思います。そして、スポーツ医学とスポーツ現場との接点をたくさん認識、活用できる知恵の共有化をはかり、いろいろな意味においての垣根を乗り越えた研修会にしていきたいと思います。会員の方はもちろんのこと、多くの方々に参加していただけるように努力いたしますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■開催要項(詳細は次号掲載予定)

期日：平成16年11月20日(土)、21日(日)

会場：西神オリエンタルホテル

テーマ：「走動作獲得に向けたアスレティックリハビリテーション—スポーツ医学とスポーツ現場でのとりくみ—」

内容：

11月20日(土)10:00～21:00

基調講演I「走動作の功と罪」大久

保衛・びわこ成蹊スポーツ大学、ダイナミックスポーツ医学研究所
特別講演Ⅰ「高校サッカー選手の育成：私のMIND」黒田和生・滝川第二高等学校サッカー部監督
一般演題発表

特別講演Ⅱ「私の志す膝靭帯治療」黒坂昌弘・神戸大学大学院医学系教授

協賛企業プレゼンテーションおよび「コラム」揭示紹介

懇親会

11月21日（日）8:30～15:30

基調講演Ⅱ「走行パフォーマンス向上のためのバイオメカニカルアプローチ」伊藤章・大阪体育大学大学院教授

コラム揭示(ポスター形式、自由討議)シンポジウム「アスレティックリハビリテーションにおける走行パフォーマンス向上を考える」高野進・東海大学(交渉中)、岩本広明・ミズノ(株)スポーツプロモーション部、吉村直樹・双愛整形外科、舌正史・埼玉医科大学

閉会式

◎問い合わせ先

神戸大学医学部保健学科 第22回研修会長 伊藤浩充

TEL 078-796-4568 FAX 078-796-4569

第22回研修会「一般演題」および「コラム揭示」募集の案内

平成16年11月20日(土)、21日(日)の2日間、神戸にて第22回研修会が開催されます。第22回研修会でも、例年どおり口述による一般演題のセッションを設けます。さらに、一般演題とは別に「コラム揭示」も募集いたします。これは、「スポーツや臨床の現場で実践している色々なアイデア」や「アスレティックリハビリテーション経験談」などについて一般演題よりもコンパクトにまとめて発表して頂こうという企画です。

ここでは一般演題のような科学性や普遍性といった学術的な内容を求めるのではなく、スポーツや臨床の現場でのちょっとしたアイデアや経

験談を話題に様々な意見交換を交わして頂ける場にしていこうと考えています。「学会発表という形式的な発表ではなく、現場で実践している面白いアイデアや経験談を気軽に少しでも披露したい」という方のための企画ですので、研究成果の報告だけでなく、日頃の臨床やトレーナー活動などでの経験等、お気軽にご応募下さい。

皆様の日頃の研究、臨床の成果や問題点についてのご発表を通じてアスレティックリハビリテーションに関する意見交換と参加者全員の交流が深まり、研修会がより一層意義あるものにして参りたいと考えております。なお、演題抄録締切日など例年と変更している点がいくつかありますのでご確認下さい。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

応募資格：研修会における発表資格は「スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会」の会員、学生会員(以下、「会員」とする)に限定されています。従って、応募の時点で未入会の方については、平成16年7月下旬までに当会への入会手続きをして下さいますようお願い申し上げます。なお、共同演者については会員である必要はありませんが、当日の発表を筆頭演者以外の方が行う場合には、その発表をする共同演者が会員である必要があります。また、対象者(または患者)には研究の意図と内容を説明し、了承を得た上で応募して下さい。

応募方法：

1) 演題名登録

- ・締め切りは4月30日(消印有効)
- ・応募には、氏名、会員番号、連絡先住所、電話番号、所属、演題名(予定)、発表形式(口述発表もしくはコラム揭示のいずれか)、抄録文書指導の希望の有無を下記宛にお知らせ下さい。応募受付後1週間以内に必要書類を送付いたします。

2) 抄録受付

- ・締め切りは7月1日(消印有効)

3) 抄録作成には「抄録作成上の注意事項」(演題登録者に後日送付いた

します)を厳守して下さい。

4) 連絡先については、演者ご本人と確実に連絡がとれる手段をお知らせ下さい。

応募期間：平成16年4月1日より4月30日(必着)までの期間とし、e-mailまたはFAXにて受け付けます。

◎応募先、問い合わせ先

第22回研修会学術審査部 吉田昌平
〒603-8214 京都府京都市北区紫野雲林院町17 京都学際研究所附属病院リハビリテーション科

FAX 075-431-9168

e-mail syoshi@gakusai.or.jp

平成16年度事業参加希望アンケートご回答のお願い

当会主催の平成16年度の事業予定は下記の通りです。参加希望者把握のために各事業への参加希望アンケートを実施いたします。同封した返信用ハガキに必要事項をご記入の上、4月15日までにご返信いただきますようお願い申し上げます。なお登録事項に変更のある方は、変更箇所□にレ印をつけ変更内容をご記入下さい。

●平成16年度事業予定

○第22回研修会(兵庫県神戸市)

開催日時：平成16年11月20日(土)、21日(日)

開催場所：西神オリエンタルホテル(〒651-2273 兵庫県神戸市西区糀台5-6-3※神戸市営地下鉄「西神中央」駅下車、駅前)

テーマ：「走動作獲得に向けたアスレティックリハビリテーションスポーツ医科学とスポーツ現場での取り組み」

○第17回(広島)ワークショップ

開催日時：平成16年4月17日(土)、18日(日)

開催場所：広島大学霞キャンパス内 広仁会館ならびに保健学科棟

テーマ：「評価をスポーツリハビリテーションにどのように応用するか」

○第18回(長崎)ワークショップ

開催日時：未定

開催場所：未定

テーマ：未定

○第19回（東京）ワークショップ
開催日時：平成17年1月29日（土）、
30日（日）

開催場所：東京都内、近郊を予定
テーマ：「競技復帰直前のアスレ
ティックリハビリテーション（予定）」

■事業報告

第16回ワークショップ（愛媛）開催報告

去る平成16年2月7日（土）、8日（日）の2日間にわたり、第16回ワークショップを愛媛十全医療学院にて開催いたしました。四国では初めてのワークショップ開催ということもあり、開催直前まで参加人数や運営面の心配を抱えておりましたが、25名（会員13名、非会員12名）の方々にご参加頂くことができました。

今回は「下肢スポーツ外傷の診かたと対応の実際」をテーマとしました。多くのスポーツ競技では身体の移動動作が伴い、重力に抗して身体を操作する際に下肢への負担は大きく、急性外傷の発生や慢性障害を下肢に抱える選手に遭遇する機会も多いと感じます。そこで、今回、下肢のスポーツ外傷に的を絞り、基本的な診かたとその具体的な対応について講義を賜りました。

1日目は田口浩之先生（松山赤十字病院）に「スポーツ外傷の発生と動作の関連について」医師の立場から具体的なスポーツ種目を例にとり、スポーツ動作と膝靭帯損傷の関連性や発生機転の分析、並びに外傷後の治療及びリハビリテーションの一連の流れを豊富な経験をもとにご講義頂きました。また、「下肢スポーツ外傷の評価に必要な知識と技術」と題して、岩本久生先生（マッターホルン病院）には「足部・足関節の運動学とチェックの実際」について、吉田修先生（海里マリン病院）には「膝関節の運動学とチェックの実際」について、機能解剖を踏まえた具体的なチェック方法と着眼点を丁寧に説明頂きました。

2日目は、加藤茂幸先生（吉備国際大学保健科学部）に「下肢スポー

ツ外傷の理解に必要なアライメントチェックの実際」について、静的アライメントの測定方法と動的アライメント観察時のポイントを映像と実技・測定を組み合わせでご講義頂きました。また、平川信洋先生（鶴田整形外科医院）には「下肢スポーツ外傷への対応に用いる基本技術」としてストレッチを中心に競技特性や個体要因を考慮した対応を提示され、現場での試行錯誤や工夫する事の大切さを伝えて頂きました。そして、佐伯秀幸（愛媛十全医療学院）が「下肢スポーツ外傷への対応で考慮すべき基本動作」について、KBW、ツイスティング、ステップ動作を取り上げ、身体操作上の問題点と指導上のポイントについて説明いたしました。

今回は、下肢のスポーツ外傷に的を絞り、機能解剖や運動学を踏まえた基本的評価を見直す機会として、また、移動動作を含めた身体操作上の問題点とその対策について再確認して頂けたように思われます。

最後に、ご多忙の中、資料作成から当日の講義・実技をして頂きました講師の先生方に厚くお礼申し上げます。また、ワークショップ開催の準備段階から当日の運営面も含め、様々なご指導とご尽力を頂いた当会理事の先生方にこの場をお借りして深謝申し上げます。そして、今回このようなワークショップ開催にあたり、不慣れな我々スタッフの行き届かないところのあった事を深くお詫び申し上げますとともに、ご協力頂いた方々に深くお礼申し上げます。

第16回ワークショップ開催委員長
佐伯秀幸

第16回ワークショップに参加して

平成16年2月7日（土）、8日（日）の2日間、第16回ワークショップが愛媛十全医療学院にて開催されました。私を含め、25名の受講者の方々が全国から参加されました。今回は「下肢スポーツ外傷の診かたと対応の実際」というテーマの基に講義、実技を賜りました。

1日目は田口浩之先生（松山赤十字病院）に「下肢スポーツ外傷の発生と動作の関連」について様々なスポーツでの外傷発生と動作の関連についてご講義を賜りました。また、岩本久生先生（マッターホルン病院）には「下肢スポーツ外傷に必要な知識と技術—足部・足関節の運動学とチェックの実際—」については足部・足関節の運動学を基に私が普段見落としていた部分にもポイントを置かれた講義・実技を賜り、改めて丁寧に観察することの大切さを教えて頂きました。そして、吉田修先生（海里マリン病院）には「下肢スポーツ外傷に必要な知識と技術—膝関節の運動学とチェックの実際—」について豊富な資料を基に理解しやすい講義・実技を賜りました。

2日目は加藤茂幸先生に「下肢スポーツ外傷の理解に必要なアライメントチェックの実際」について講義・実技を賜り、アライメントチェック時におけるポイントを理解しやすく説明して頂きました。また、平川信洋先生（鶴田整形外科医院）には「下肢スポーツ外傷への対応に用いる基本技術」についてストレッチを中心に講義・実技を賜りました。この講義では私が実際にモデルとして平川先生のストレッチを体験させて頂き、私のストレッチに対する考え方に新しい観点が生まれ、非常に参考になりました。最後に佐伯秀幸先生（愛媛十全医療学院）には「下肢スポーツ外傷への対応に考慮すべき基本動作」としてKBW・ツイスティングなどの下肢動作について、実技を中心に動作のポイントを丁寧に教えて頂きました。

今回のワークショップでは、スポーツ外傷に対応する際に最も重要な部分である評価を動作との関連や関節別に分類された講義を受講できた事で捉えやすくなったと思います。また、対応における実際を体験することでどの様に考慮し、対応していくべきかという基礎となる考え方を身に付けることができたように思います。今回の講義で学んだこと

はスポーツ現場のみならず、病院における理学療法などのアプローチする上でも考慮すべきことでもあります。この経験を生かし、患者さんおよびスポーツ選手の笑顔が一つでも多く見られる様に精進していこう思います。最後にご多忙の中、資料作成から当日の講義・実技をして頂きました講師の先生方に厚くお礼を申し上げます。

愛媛十全医療学院附属病院リハビリテーション科 石田裕也

平成15年度第2回講習会報告

去る平成16年2月29日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、平成15年度最後の事業であります第2回講習会を総会とともに開催させて頂きました。テーマを「スポーツ選手の健康管理の実際」とし、日頃ご活躍の4人の講師の先生方に貴重なご講演を賜りました。

第1の講習は早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科助教授の鳥居俊先生に整形外科医の立場で「運動器の健康管理」について、第2に内科医の立場で同大学同学部教授の坂本静男先生に「スポーツ選手の医科学サポート」について、両先生が長年に渡り携わる選手や研究されている整形外科・内科的諸問題について、その対応などを踏まえ解りやすくご講演頂きました。次いで栄養面の健康管理について、OfficeLac-U代表の石川三知先生より現場に即した食事管理を中心にご講義頂き、活発な質問にもご丁寧に受け答えして頂きました。最後にアスレティックトレーナーとその教育者の立場から、国際武道大学体育学部助教授の山本利春先生(当会理事)に学内選手のメディカルチェックについて活動開始当初からの積み重ねを成果としてご講義頂き、トレーナー活動の学内システムとして構築されたことが大変参考になったと考えます。

講師の先生方には大変ご多忙のところ当会のためにお時間を割いて頂き、貴重なご講演をして頂いたこと

について深く感謝いたします。また準備に携わって頂いた役員、参加者会員の方々には滞りなくスケジュールを終えたことについて、本書面をもってお礼にかえさせていただきます。

第2回講習会開催委員長 寺蘭圭一
(城所整形外科)

平成15年度第2回講習会に参加して

去る2月29日、第2回講習会が東京で行われ、「スポーツ選手の健康管理の実際」というテーマで、4人の講師の先生方による講演が行われました。整形外科医師・内科医師・栄養士・アスレティックトレーナーのそれぞれの立場から、選手の健康管理を行ううえで重要な点や必要な点を、実際に行われた調査・研究の結果や日常的にされている活動を交えて話して頂きました。どの講演も1時間という短い時間の中で、いくつかの大事なポイントに絞ってお話をして頂いたので、いずれも分かりやすく、充実した内容でした。質問にも丁寧に答えて頂き、知りたいことを知ることのできる講演ばかりでした。

1日を通して、4人の講師の先生方が異口同音に「(選手が)自分で自分を把握し、管理すること」の重要性を言われていたことが、非常に印象的でした。僕はPTとして医療施設で働いていますが、リハビリテーションの場だけでなく、選手自身がきちんと自分の状態を把握し、必要に応じて自分で自分をケアできるように指導していくことの大事さを強く感じました。新しい知識だけでなく、色々なことを学ぶことができた有意義な講習会であったと思います。

財団法人スポーツ医・科学研究所
金村朋直

平成15年度定期総会報告

平成16年2月29日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された平成15年度第2回講習会に併せて開かれた平成15年度定期総会は、会員348名のうち38名の出席、107名の委任状の提出を得て、定数の5分の1以上の出席が確認され成立しまし

た。なおニュース前号に記載したすべての議案および平成15年度会計報告、平成16年度予算案さらに定款改正についてすべてが承認されました。

■各部・各委員会からのお知らせ■ 平成16年度年会費納入について

平成16年4月1日からの新年度の際し、平成16年度の年会費の納入を会員の皆様にお問い合わせ申し上げます。SR研定款細則第1章第6条により、年会費納入期限は7月31日となっております。納入要項を参照の上、遅延のないよう切にお願い申し上げます。

領収書が必要な場合は、年会費納入後に会員番号、氏名、送付先住所を明記の上、振込控えを同封し、下記宛にお送り下さい。折り返し領収書を発行させていただきます。ただし、領収書の宛名は個人名に限らせて頂きます。病院名、企業名の連名等は出来ませんので予めご了承下さい。

年会費未納の方は平成16年度事業には参加できませんのでご注意ください。

■年会費納入要項

年会費額：会員-10,000円、学生会員-5,000円

納入方法：下記の①か②のどちらかの方法で納入願います。

①同封の郵便振替用紙に必ず、氏名、連絡先住所、連絡先電話番号を記載し、上記の該当金額を郵便局よりご送金下さい(4月1日以降にお振り込み願います)。なお、通信欄には何も記載しないで下さい。住所変更等の通信事項のある方は別途ハガキにて下記までお送り下さい。なお、第1回講習会に参加される方は年会費納入の確認のため、振替票控えを当日お持ち下さい。

②第1回講習会(6月13日開催)にて、年会費受付窓口で直接お払い下さい。

◎問い合わせ先

〒164-8604(住所表記不要)有ブックハウス・エイチディ内 TEL 03-3372-6251 FAX 03-3372-6250
スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会事務局代行

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
第16回ワークショップ（愛媛）収支計算報告書
（平成16年2月7～8日開催）

平成16年2月18日締

勘定項目	第16回予算額	第16回決算額	差異(△)	備考
I 収入の部	円	円	円	
参加費 会員	500,000	260,000	240,000	20,000円×13名
一般	175,000	420,000	△ 245,000	35,000円×12名
事業収入合計 A	675,000	680,000	△ 5,000	
事業費	20,000	20,000	0	
収入合計 B	695,000	700,000	△ 5,000	

II 支出の部	円	円	円	
通信連絡費	20,000	10,080	9,920	切手代他
事務消耗費	10,000	5,955	4,045	
運営費	40,000	14,300	25,700	
会場費	10,000	0	10,000	*1
講演費	440,000	373,260	66,740	*2
懇親会費	90,000	76,987	13,013	*3
人件費	45,000	63,600	△ 18,600	受付・接待アルバイト
資料作成費	30,000	26,316	3,684	ファイル代、コピー代
雑費	10,000	7,893	2,107	DVテープ他
事業支出合計 C	695,000	578,391	116,609	

差引差額 A-C	△ 20,000	101,609	△ 121,609	
差引差額 B-C	0	121,609	△ 121,609	一般経理繰入

*1：会場／愛媛十全医療学院多目的ホール

*2：外部講師1名・内部講師5名・座長3名

*3：懇親会費／当日徴収金額11,000円（1,000円×11名）

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
平成15年度収支計算報告書（仮）

平成15年12月31日締

勘定項目	平成15年度予算	平成15年度仮決算	差異(△)	備考
〈収入〉	円	円	円	
年会費 正会員	1,200,000	3,410,000	△ 2,210,000	10,000円×341名
年会費 準会員	2,000,000	0	2,000,000	(今年度より準会員制度廃止)
年会費 学生会員	75,000	50,000	25,000	5,000円×10名
年会費 賛助会員	1,250,000	1,250,000	0	50,000円×25口
入会金 新規会員	180,000	117,000	63,000	3,000円×39名
事業収入	1,800,000	2,254,171	△ 454,171	第1回講習会、第14・15回ワークショップ、 研修会
雑収入	1,000	4,313	△ 3,313	銀行利息、コピー使用料
当期収入合計 A	6,506,000	7,085,484	△ 579,484	
前年度繰越金	1,300,000	1,303,308	△ 3,308	
収入合計 B	7,806,000	8,388,792	△ 582,792	

〈支出〉	円	円	円	
通信連絡費	246,000	290,920	△ 44,920	
事務消耗費	150,000	230,276	△ 80,276	
会議費	650,000	405,679	244,321	四役会議、第1回理事会他
役員行動費	100,000	102,899	△ 2,899	第14回・15回ワークショップ視察
人件費	600,000	453,600	146,400	4月～12月分
備品費	50,000	0	50,000	
備品管理費	50,000	22,281	27,719	アプリケーションバージョンアップ、 周辺機器
事業費	170,000	165,000	5,000	第1回講習会、第14・15回ワークショップ、 研修会
会報作成費	360,000	176,295	183,705	ARFA Vol.1
教材資料作成費	210,000	151,410	58,590	第21回研修会誌作成費
雑費	20,000	9,710	10,290	
地方開催対策費	50,000	0	50,000	
事務委託費	3,600,000	2,700,000	900,000	4月～12月分
JAR制作費	300,000	300,000	0	JAR No.4買上
HP設営運営費	250,000	190,575	59,425	3月～10月分
住所録作成積立費	0	0	0	
会誌作成積立費	0	0	0	
SR基金積立費	0	0	0	
地方開催対策積立費	0	0	0	
支出合計 C	6,806,000	5,198,645	1,607,355	

当期収支差額 A-C	△ 300,000	1,886,839	△ 2,186,839	
次期繰越金 B-C	1,000,000	3,190,147	△ 2,190,147	

積立残高 住所録作成積立費 ¥505,962.-、会誌作成積立費 ¥240,838.-、事務局設営積立費 ¥2,671,893.-
SR基金積立費 ¥291,495.-、資料作成積立費 ¥1,019,505.-、地方開催対策積立費 ¥300,810.-

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
平成16年度予算案

平成16年2月24日

勘定項目	平成15年度予算	平成16年度予算	差異(△)	備考
〈収入〉	円	円	円	
年会費 正会員	3,200,000	3,200,000	0	10,000円×320名
年会費 学生会員	75,000	50,000	△ 25,000	5,000円×10名
年会費 賛助会員	1,250,000	1,250,000	0	50,000円×25口
入会金 新規会員	180,000	180,000	0	3,000円×60名
事業収入	1,800,000	1,800,000	0	*1
雑収入	1,000	1,000	0	
当期収入合計 A	6,506,000	6,481,000	△ 25,000	
前年度繰越金	1,300,000	1,000,000	△ 300,000	
収入合計 B	7,806,000	7,481,000	△ 325,000	

〈支出〉	円	円	円	
通信連絡費	246,000	250,000	4,000	ニュース発送(4回)、研修会誌発送他
事務消耗費	150,000	150,000	0	コピーメンテナンス料含む
会議費	650,000	650,000	0	理事会3回、四役会議他
役員行動費	100,000	100,000	0	役員事業視察
人件費	600,000	600,000	0	
備品費	50,000	0	△ 50,000	
備品管理費	50,000	50,000	0	
事業費	170,000	170,000	0	*1
会報作成費	360,000	360,000	0	ニュース発行年4回
教材資料作成費	210,000	210,000	0	研修会誌印刷代
雑費	20,000	20,000	0	
地方開催対策費	50,000	50,000	0	
事務委託費	3,600,000	3,600,000	0	
JAR制作費	300,000	21,000	△ 279,000	
HP設営運営費	250,000	250,000	0	
住所録作成積立費	0	0	0	
会誌作成積立費	0	0	0	
SR基金積立費	0	0	0	
支出合計 C	6,806,000	6,481,000	△ 325,000	

当期収支差額 A-C	△ 300,000	0	300,000	
次期繰越金 B-C	1,000,000	1,000,000	△ 1,000,000	

*1：平成16年度事業予定／第1回講習会（愛知）、第17回ワークショップ（広島）、第18回ワークショップ（長崎）
第19回ワークショップ（東京）、第22回研修会（神戸）、第2回講習会（東京）